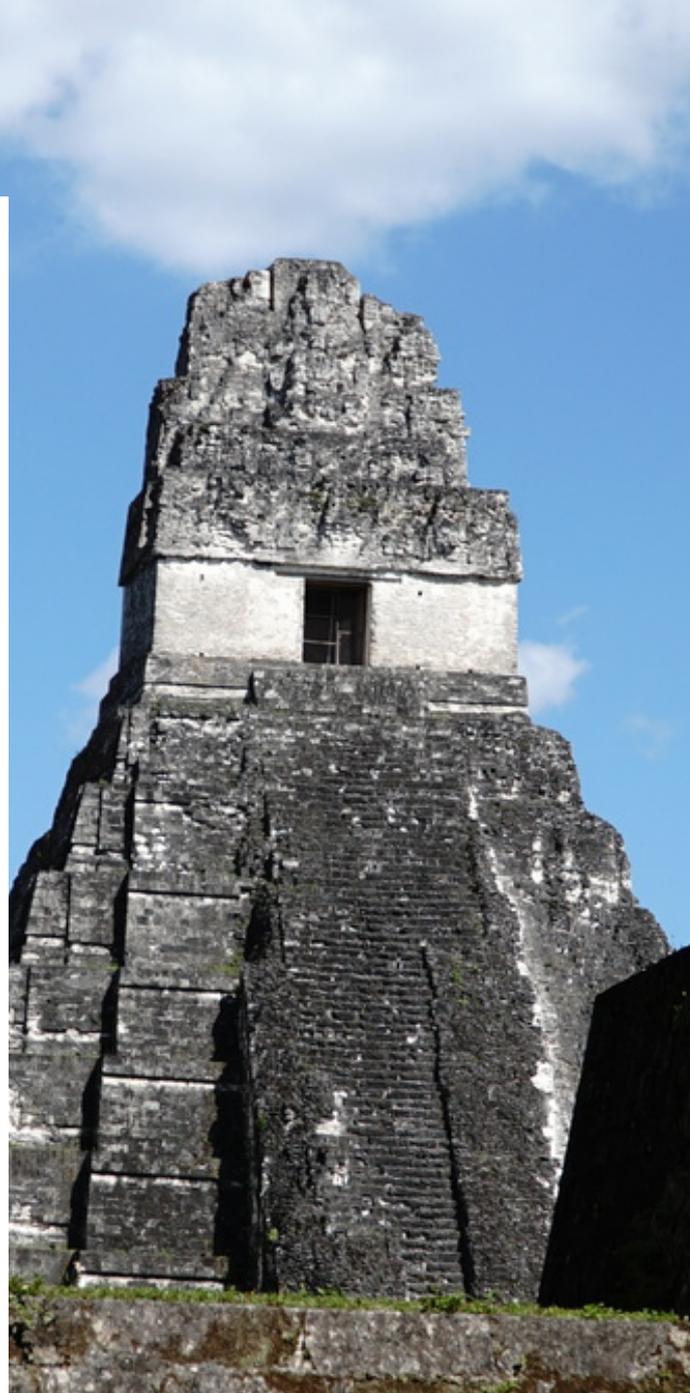


金沢大学 ティカル リエゾンオフィス

現在の状況

2021年2月

金沢大学人間社会研究域附属
国際文化資源学研究センター長/教授
中村 誠一



1 ティカル国立公園

中央アメリカのグアテマラ北部に位置するティカル国立公園はユネスコの世界複合遺産として登録されている。最盛期のマヤ文明最大の都市遺跡の一つで、マヤ文明の歴史上もっとも重要な都市の一つである。また、国立公園は約 576 平方キロメートルの範囲をもつ熱帯雨林地帯であり、これまでの調査により、352 種類の鳥類、100 種類をこえる哺乳類、25 種類の両生類、ワニ、亀、トカゲなど 105 種類、ヘビ 50 種類の爬虫類、チョウ 535 種類などが確認されており、生物多様性が保存されている。



ティカル国立公園 4号神殿からの眺望



1号神殿と大広場



中央アクロポリス



遺跡の周囲に現れたクモザル



公園でよく見かけるハナグマ

2 金沢大学の活動の写真



調査研究・修復保存活動を実施している
北のアクロポリス



発掘調査地点



草の根技術協力事業
近隣の児童生徒にティカル国立公園で
野外体験教育研修実施



草の根技術協力事業
木工民芸品製作研修

3 金沢大学リエゾンオフィス設置の経緯

金沢大学のグアテマラにおける研究・教育拠点形成の端緒は2010年11月にグアテマラ文化スポーツ省文化自然遺産副大臣一行が本学を訪問し、ティカル総合プロジェクトの共同実施に関する意向書を人間社会研究域と署名したことに遡る。(http://www.kanazawa-u.ac.jp/news/10882)

この後、2011年6月に研究担当理事・副学長(当時)を团长とする大学訪問団がグアテマラを公式訪問し、文化スポーツ省文化自然遺産副省と交流協定を締結、同日、人間社会研究域長(当時)がティカルプロジェクト実施に関する覚書を締結した(写真1)。これらの協定締結を受けて、2011年10月13~14日、ティカル国立公園を管理するグアテマラ政府の最高機関である文化スポーツ省大臣が本学を訪問し、学長を表敬訪問すると同時に学生・教職員向けに講演会を開催した(http://www.kanazawa-u.ac.jp/news/9246, http://www.kanazawa-u.ac.jp/news/9222)。

この際に、文化スポーツ大臣より金沢大学にティカルプロジェクト開始の際には、国立公園内の施設のいくつかを無償で貸与する旨の約定書が学長へ手渡された(資料1 学長あて書簡の項目 a)。



資料1 学長あて書簡

項目 a (翻訳) : 山下設計と徳倉建設が事務所として使用しているティカル国立公園管理部門区域内の建物。これには現使用者から引き渡される家具・調度品を含むが、コンピュータは含まれない。

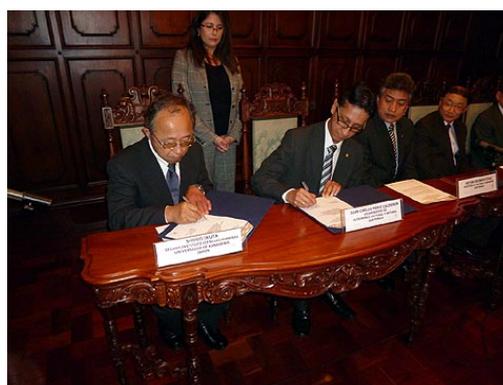


写真1 金沢大学とグアテマラ文化スポーツ省の間の交流協定及びティカルプロジェクト実施に関する覚書調印 (2011年6月)

現ティカルオフィスは、日本政府からの無償資金協力事業によってティカル国立公園内に設立された文化遺産保存研究センターの建設を担当していた山下設計と徳倉建設が、自分たちのオフィスとして建設し使用していた建物である。同センターの建設工事が終了し2012年7月にオープニング

式典が行われると、金沢大学は世界の研究機関の中で唯一、グアテマラ政府から式典に招待され、研究担当理事・副学長(当時)が出席するとともに、ティカルオフィスの看板設置を行った。その後、2015年4月からは、正式に大学のリエゾンオフィスとして登録された。

4 ティカルオフィスの使用状況

(資料2 参照)

ティカルオフィスは、これまで北のアクロポリスの発掘調査や修復保存活動に使用されてきた。また、金沢大学が受託した JICA の課題別研修(2013~2015)や草の根技術協力事業第一期(2014~2016)、海外インターンシッププログラム(グアテマラ・ティカル)の拠点としても利用された(2016, 2018)。現在は、JICA の草の根技術協力事業第二期(ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト:2017~2022)を実施中であり、その活動にも使用している。

2020年度は新型コロナウイルス感染症のために、大学から出張して訪問することができず研究や教育のために活用することはできなかった。そのため現時点では、草の根技術協力事業の拠点としての機能のほかは、メンテナンスのために定期的な作業を行っているのみである。

5 オフィス整備の背景と経緯・状況

ユネスコ世界遺産の中でも、複合遺産登録世界第一号(1979)となった「ティカル国立公園」は、約576km²の面積を有し、隣国のメキシコからこの地域を通過してベリーズ国境まで広がるマヤ生物圏保護区という2万km²を超える広大な熱帯雨林地帯の中にある。公園入り口から公園管理棟や研究棟、上述した「ティカル国立公園文化遺産保存研究センター」、遺跡観光のためのビジターセンター等がある中心地区まで、17kmの舗装道路が続いているのみである。こういった条件のため電力会社の電力は供給されていない。そのため電力を利用するためには、自営の発電設備が必要となる。

金沢大学ティカルオフィスでは、ディーゼルエンジンによる28kvaの中型固定式発電機を2013年2月に大学予算で購入、設置して利用している。購入・設置は徳倉建設に発注して実施された。上述したように、ティカルオフィスはもともと徳倉建設が文化遺産保存研究センターの建設時に利用していた事務所を引き継いでグアテマラ政府から借用しているという経緯があるためである。発電機設置と同時にオフィスの電気設備の総合点検・配線作業が徳倉建設の技術者により行われた。

その後、2014年10月の秋篠宮同妃両殿下のティカル国立公園ご訪問の際に、お休み処としてご使用になられる可能性があるという話がもちあがり、人間社会研究域の費用で洗面所、トイレ、応接室等が整備された。両殿下は大学ティカルオフィスでご休憩なされると同時に、ティカルオフィスを使

った大学の活動は、資料 3 に見られるように大きな広報効果をあげた (<http://www.kanazawa-u.ac.jp/news/5312>)。

発電機は高温多湿という当地の過酷な環境のなかで設置されていることから故障することが多く、これまでも何度も修理を実施してきた。最近では 2020 年 2 月に修理を行って安定稼働するようになったが、その後新型コロナウイルス感染症の広がりでおフィスを利用するのが難しい状態が続き、バッテリーの劣化と雨による腐食のために再び故障してしまった。2021 年度はじめに修繕を計画しており、今後は大学からの利用者がいない場合でも定期的な試験稼働を行うことで故障を防ぐ計画である。

また、オフィスの床面のセラミックタイルが経年劣化で剥がれて浮き上がってくることもあり、こちらに関しても随時修繕を行っている。2021年2月にも修繕を実施した。

6 今後の活動計画

現在実施中の JICA 草の根技術協力事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で技能習得を目的とする集合研修が実施できず、オンラインでの活動に切り替えている。そのため、研修の効果が十分でなく、実施期間を 2022 年 12 月まで延長する方向で JICA と調整が進んでいる。また、ティカル国立公園文化遺産保存研究センターの有効活用を図る、という点からも、JICA の支援を得て、メキシコ国立人類学歴史学研究所から、今年から 3 年間にわたり文化遺産保存専門家の短期派遣が検討され本学の協力が求められている。大学としてもティカルにおける調査研究を進展させるため、国際協力拠点交流事業として、文化庁へ案件を申請している。また、コロナ禍が収束に向かい、学生の海外インターンシッププログラムが安全に再開できる状況になった暁には、再度、プログラムの実施を計画している。

上記の点から、ティカルリエゾンオフィスは、今後も大学の研究教育活動拠点として、その利用を継続する予定である。関係部署のご支援をお願いしたい。

オフィスの写真



ティカルリエゾンオフィス
(2016年9月)



ティカルリエゾンオフィス入り口
(2016年9月)



オフィスで実施した専門家向け研修
(2018年8月)



インターンシッププログラム参加者記念撮影
(2018年9月)



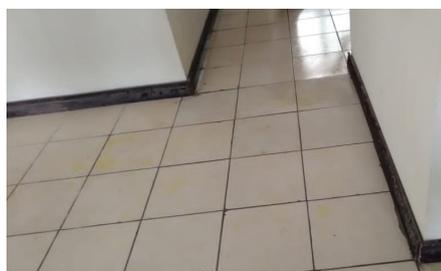
発電機
(2020年10月)



発電機のラベル
(2020年10月)



床の修繕
(2021年2月)



床の修繕後の状況
(2021年2月)

ティカル・リエゾンオフィスと関連事業について

| 年度 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | | |
|--------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---|--|
| ティカル北のアクロポリスプロジェクト | | | | | | | | | | | | 北のアクロポリスの研究調査、修復保存活動実施にあたり、リエゾンオフィスはプロジェクトの中核拠点として学術調査・教育の両面で機能。 | |
| JICA 研修員受け入れ事業 | | | | | | | | | | | | | 課題別研修「中米地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用」2014、2015年度にティカル遺跡にて実施した在外補完研修で使用。事業期間2013～2015年。 |
| JICA 草の根技術協力事業(1) | | | | | | | | | | | | | 世界複合遺産「ティカル国立公園」の保存と活用を通じた住民の生活向上支援プロジェクト。プロジェクトの本拠地としてオフィスを使用。 |
| JICA 草の根技術協力事業(2) | | | | | | | | | | | | ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト。プロジェクトの本拠地としてオフィスを使用。2017～2022年(約5年間)。 | |
| 教育プログラム | | | | | | | | | | | | | 異文化体験実習・GPプログラム実施(2016年9月)。 インターンシッププログラム実施(2018年9月)。 2022年にGPプログラムを計画。 |

文仁親王同妃両殿下 グアテマラ及びメキシコご訪問を終えて

文仁親王同妃両殿下のご感想

(平成26年10月14日)

グアテマラ及びメキシコご訪問を終えて

このたび、明年を外交関係樹立80周年に控えたグアテマラ共和国、そして昨年からはまった「支倉使節団訪墨400周年：日墨交流年」のメキシコ合衆国をそれぞれ訪問できましたことを誠にうれしく思います。メキシコは、日本人移住100周年の機会以来の再訪で、グアテマラは初めて訪問いたしました。

最初の訪問国であるグアテマラにおいては、ペレス・モリーナ大統領閣下ご夫妻への表敬、同大統領ご夫妻主催の晩餐会に出席をしたほか、世界遺産に登録され、グアテマラにおいて最大の古典期マヤ文明の都市として知られるティカル遺跡や18世紀の地震で大きな被害を受けるまで首都であり、富士山にうり二つの姿をしたアグア火山でよく知られる街アンティグアを訪れました。また、今回行くことができなかった場所についても、各種博物館で展示されている考古遺物や各地方の多様な手工芸品等を見たことは、グアテマラの歴史、文化や人々の暮らしを理解する一助になったと思います。そして、マヤ文明の末裔たちが形を変えながらも現代マヤ文化を創造していることを再認識いたしました。

訪ねた場所はそれぞれ特徴がありましたが、ティカル遺跡では4号神殿の上から見渡すと、この遺跡が深い森の中にあった都市であることがわかり、同じマヤ文明でも以前に見たことがあるチチェン・イツツァとは趣が異なり、興味深く見学することができました。そして、この遺跡の調査研究や地域住民に対する遺跡保存に関わる活動に我が国の金沢大学が大きく寄与していることは、マヤ文明の解明のみならず日本とグアテマラとの学术交流という点からもきわめて意義深いことといえると思います。

(中略)

このたびのグアテマラとメキシコの二か国において、首都以外にも幾つかの都市を訪れ、多くの人々に会う機会がありました。各地において、温かく迎えていただきましたことに深く感謝いたします。そして、たとえば、私たちが普段あまり意識していないものの身近に存在する栽培植物やそれに伴う食生活、そして手工芸など、メソアメリカ諸文明の一端に触れることができたことをうれしく思います。今後とも我が国とグアテマラ、メキシコ両国との友好親善関係がさらに増進されることを願っております。

宮内庁：
〒100-8111 東京都千代田区千代田1-1
電話：03-3213-1111（代表）

Copyright © Imperial Household Agency. All Rights Reserved.